

8. 市内に残る防空壕

当時の防空壕の多くは、地面に掘った穴に、板で蓋をした後、土をかぶせた程度の一時的なものでしたので、長くは残りませんでした。

しかし、中には会社が作ったコンクリート製のものや、町内で共用するために住民が協力して掘った大きな防空壕、土手の斜面を利用して掘ったものもありました。これらは、戦後にもしばらく残っていたようですが、町の再編、住宅の建て替えなどの際に次第になくなり、現在ではほとんど残っていないようです。



一般的な防空壕の様子

(模型) ピースおおさか 所蔵

2021年（令和3年）まで、明石市内で確認できる防空壕が1か所残っていました。

(1) 鍛冶屋町

近所で共用するために掘られたもので、防空壕としては、かなり大型です。

現存時には、当時の防空壕をコンクリートで補強して、倉庫として使用していました。



(2) 西明石南町

ここは、下水道に入るための通路で、防空壕として掘られたものではありませんが、近くの人が、防空壕の代わりに利用していたことがわかっています。

※ ここは、防空壕に入るための通路でしたが、現在は安全のため中に入れないよう埋められています。

